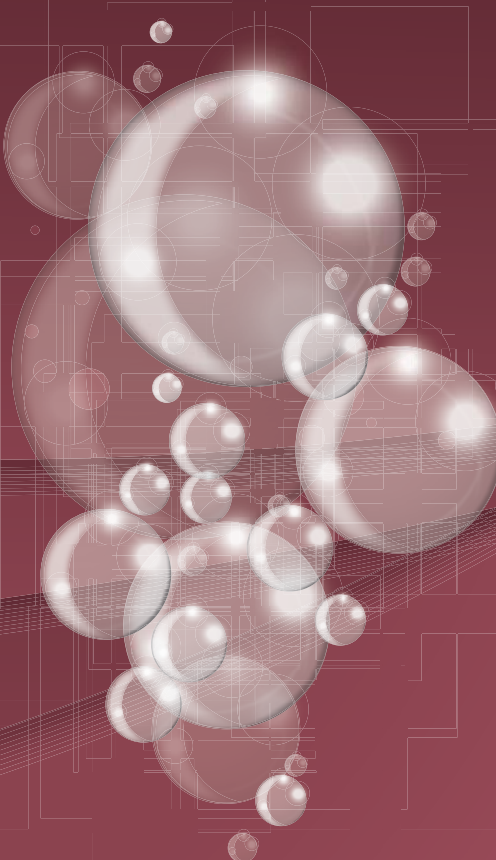


長崎県水産業振興基本計画

平成28年度－32年度

第3章

本県水産業の課題



第3章

本県水産業の課題

本県水産業の現状や、前計画の成果検証等を踏まえ、今後重点的に取り組むべき課題について、次のとおり整理しました。

1 漁業の収益性向上

漁船漁業・養殖業は、燃油や餌料等の経費の増大により収益性が悪化しており、漁業者の経営力を強化するとともに、漁船漁業と貝藻類養殖の組合せによる経営の多角化や雇用型漁業の優良な経営モデルの構築等を推進していく必要がある。

2 浜の活性化と就業者の確保

漁業就業者の減少や高齢化により漁村地域の活力が低下しており、漁業者・漁協・市町が連携して作成した「浜の活力再生プラン」の具体化や6次産業化など浜・地域の魅力の活用による漁村地域の活性化、さらに漁業就業者の確保と地域を牽引する漁業者の育成を推進していく必要がある。

3 加工・流通対策

国内水産物需要が減少し生産者価格が低迷する一方で、世界的需要は増大傾向にあり、また消費者ニーズは、安全安心・簡便化・低価格志向など多様化している。国内外での多様な販路確保や安全安心な水産物の供給体制づくり、多様なニーズに対応できる供給体制づくりを推進していく必要がある。

4 水産資源の減少と環境変化

沖合漁場における外国漁船との漁場競合による操業の制約や水産資源の減少、さらに海水温の上昇や磯焼け状態の継続などの海洋環境の変化が続いている。限られた資源を持続的に利用するための資源管理や栽培漁業、藻場回復などによる漁場づくりの推進、併せて漁村の生活・就労環境の基盤整備が必要である。